

# 飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



教室で宿題をしているボリビアの子どもたち

## あなたの愛は見えますか？

日本国際飢餓対策機構 理事長 岩橋竜介

新年おめでとうございます。国の内外を問わず、今私たちの置かれている時代は激しく動いています。この様な厳しい中で、皆様が犠牲をいとわずにして下さるその尊いご支援に心から感謝を申し上げます。キリスト教会や諸団体、企業、壮年の方々は元より、年金で生活しておられる高齢の方々、またわすかなお小遣いの中からささげてくれる小さな子どもまで、皆様の愛によって支えられ、世界の飢餓と貧困、災害などで苦しむ人々に愛を形にして届けることができました。

私には子どもが3人おります。一人ひとり個性があり私たち夫婦にとってはかけがえのない存在です。長女が学校で楽しく生活しているのを見ると嬉しいですし、次女が交通事故に遭った時には、代わってやりたいと思うほどに心を痛め涙しました。長男が児童合唱団で晴れやかに歌っているのを見る時、感動し誇りに思います。感謝なことは、私たち夫婦と同じようにこの3人の子どもに愛を示してくれる両親、さらには血のつながりを超えて、教会の方々や友人たちがいることです。その様な人たちの愛によって私の家族は支えられているのだと感謝しています。

その感謝の気持ちを具体的に表わしたいと思い、私たち家族は世界里親会を通してフィリピンの10歳の男の子の里

親になっています。私の長男と同年で、見た目もことなく似ているわが家のもう一人の息子です。そのJM君から手紙が届きます。色鉛筆とクレヨンで描いた絵が添えられている感謝の手紙です。JM君がしていること、楽しんでいることはまさに長男がしていることと同じなのです。場所が変わっても、子どもが楽しむこと、頑張っていること、苦しんでいることは同じようなことなのだと改めて思われます。息子が笑い、泣き、楽しみ、苦しむ時、海の向こうのJM君もそうであることを思い、彼のために祈ります。食べ物が与えられ、わが家の食卓で感謝の祈りをする時に、彼にも今日食べる物が与えられるようにと祈ります。そして、このことが私たち家族の心を育て、豊かにしてくれているのです。支援しているようで、実は私たちが支えられているのです。

愛が行動に表われ、形になること。これが一人また一人と広がる時に、支えられる人も支える人も、心豊かにされ、飢餓と貧困に苦しむ人が必ず救われると信じています。ぜひ、あなたも愛を見える形に表わして下さい。そして愛の冷えた社会で本当の豊かさを分かち合いましょう。「愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」聖書

## ☑ コーヒー、ココアとチョコの「恵み袋」 ～キングダムビジネスから～

フェアトレード商品の購入を通し、当機構にご協力くださりありがとうございます。ぜひ今年も、キングダムビジネスをご利用ください。今回もお得なセット商品のご案内です。

【恵み袋の内容】

フェアトレード・ココア

1袋 650円

モカ・ブレンドコーヒー

1袋 870円

フェアトレード・チョコ

2個 650円

◆ 梱包送料800円

合計2,970円を税込2,500円でお届けします。1セット毎に500円相当のかわいいグッズがついてきます。

チョコは①オーガニックビター ②ミルク クランチ ③オレンジ ④ホワイト ⑤ヘーゼルナッツ ⑥レーズン&カシューナッツの中から2個をお任せでお送りします。(但し、北海道、沖縄は別途送料600円が必要です)

【お申し込み】 株式会社キングダムビジネス  
TEL: 06-6755-4877 FAX: 06-6755-4888  
ウェブ: キングダムビジネスの恵み袋で検索

## ☑ 3月にファシリテータートレーニング 参加者を募集します(千葉で開催)

「いつか海外で働きたい」「なぜ貧しい国があるの」「開発途上国で活動、となるとちょっと心配…」という方にお勧めします! 講師の話を聞くだけでなく、グループワークもします。

日時: 2015年3月16日(月)～3月21日(土)  
場所: 東京基督教大学  
(千葉県印西市内野3-301-5-1)  
費用: 3万円 (テキスト代含む)  
受付: 大阪事務所・吉本 ☎072-920-2225

## 森祐理さんのラジオ番組が スタートしました!

「モリユリのこころのメロディ」

ラジオ関西 558KHz

毎週金曜日午後9時～(30分)



祐理さんの優しい語り口によるお話やエピソード (JIFHの親善大使としての活動報告もあります) とともに唱歌など懐かしい歌や讃美歌、歌曲が流れます。毎回、心に響く言葉をお届けするコーナー「言葉の花束」があり、マザーテレサの言葉や聖書の言葉が紹介されます。また祐理さんのコンサート情報やお薦めの映画情報などホットな話題も取り上げます。

今後月に一度のペースでゲストを招いて、番組でしか聞くことができないエピソードもお届けする予定です。ぜひ視聴ください。

なお番組終了後に、森さんのホームページから視聴することもできます。

## ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

現在...

3/8 07/10

## 今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。  
**お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。**

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。  
毎月 ( ) 口 (1口 1,000円)
- ☐ チャイルド・サポーター(世界里親会) になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。  
毎月 ( ) 口 (1口 1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。  
毎月 ( ) 口 (1口 500円)
- ☐ ウガンダレンガ募金 ( ) 口 (1個 3,000円)
- ☐ 今回に限り ( ) 円協力します。
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ  
氏名: \_\_\_\_\_ 男・女

〒 \_\_\_\_\_

フリガナ  
住所: \_\_\_\_\_

..... (電話) \_\_\_\_\_

▼申込日: \_\_\_\_\_ 年 月 日 ▼ NL 293号

**FAX・072-920-2155**

■ 発行者 岩橋竜介

■ 発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

ハンガーゼロ  
で検索!

Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>  
eメールアドレス [general@jifh.org](mailto:general@jifh.org)  
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■ 募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ

今すぐ  
募金が  
できます!

ゆうちょ銀行  
その他の金融機関

VISA

コンビニ店頭で募金申込  
ファミリーマート  
セブンイレブン  
ローソン

かざして募金

JCBカードも使えるようになりました!

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力を下さっています。





## コンゴの人々に対する学生 たちの関心や深い思いやりの 心に感動しました



2014年の世界食料デー大会では、教会などで講演をさせていただくだけでなく、学校のクラスでのディスカッション、学生たちとの質疑応答なども行うことができました。このように様々な学校の生徒が、「世界食料デー」という共通の目的のために集まり、学んでいるのを見るのはとても嬉しいことでした。グループディスカッションを通して生徒たちはアイデアを分かち合ったり、世界の他の地域で起きている課題について話し合ったりする事もできました。又コンゴの貧しい子どもたちのために、持っているものをささげている生徒たち数人にも出会う機会があたえられました。

### 生徒の国際感覚に感心

特に印象的だった2カ所での経験をお伝えします。

まず、関西学院大学大学附属高

校のグローバル教育クラスの生徒たちが、堂々と世界的な課題について語るのを見て感心しました。彼らは、私の英語での話を聞き、通訳なしで様々な質問を投げかけました。その一つに「国際的な基準を守らない国々に対して、世界はどのように対処すべきだと思いますか」という質問がありました。私が中学生の時、先生にこのような質問をする事は到底できませんでした。

又「ジェロームさんは、『人間は互いに愛し合うべき存在で、積極的に愛の行動を周りの人にしていきましょう』と言われましたが、私は愛の行動がテロや過激派グループの残虐行為を止めるとは思えません。愛の行動がそのような問題の解決になるのでしょうか」という質問もありました。

### 愛を行動で表すことこそ

この質問に対して私は次のように話しました。「良い質問です！確かに愛の行動によって全ての問題を解決するのは難しいかもしれませんが、なぜなら愛には相

互関係が大切だからです。たとえどんなに愛を注いだとしても、受け取る側がそれを拒否してしまうこともあります。

それではどうするか、愛の行動には意味がないから何もしない？

しかし何もしなければ、問題は全く解決しないでしょう。愛によって全ての問題は解決しないかもしれませんが、愛以外に問題解決の道はありません。問題解決の鍵は愛です。ですから私たちは精一杯の愛を表し続けなければなりません。」

また、大阪女学院でコンゴ民主共和国における飢餓の現状について分かち合った時、生徒の多くが、「コンゴの人々を助けるために自分たちに何ができると思うか」と尋ねてきました。彼女たちの見せた関心と深い思いやりの心に感動しました。

今回の経験から、私たちには他の人々、特に若者と情報を分かち合う責任があることを痛感しました。飢餓や貧困のような地球規模の問題について若い世代と共有し、話し合う場を定期的に開催するのはすばらしいし、重要な事だと思います。



ぜひ「ハンガーゼロ・サポーター」となってジェロームの働きを応援ください。裏面に申込み欄があります。

### 特別寄稿



## 「阪神淡路大震災から20年を迎えて」

福音歌手 森 祐理（日本国際飢餓対策機構 親善大使）

1995年1月17日あの日以来、私の人生は大きく変わった気がします。仲良しだった弟の死、多くの方々の苦しむ姿、美しかった街々の破壊を目の当たりにした時、心が破れたような気持ちになりました。でもその痛みから、他の方々の悲しみが沁みしてくるようになり、初めて自分の事のように感じられるようになったのです。

「痛みに届きたい」それが動機となって、神戸の被災地に出て行き、瓦礫の中や炊き出しの列の前で歌ったことが昨日のように思い出されます。歌い続ける中で、阪神大震災の被災地だけでなく東日本大震災等の各地の災害被災地につながり、海外の被災地にもつながり、刑務所や矯正施設での働きにもつながりました。

日本国際飢餓対策機構の親善大使として、アフリカの奥地や飢餓貧困で苦しむ地を訪れ歌うようになったことも、「痛みに届きたい」という願いがつながっているように思います。

弟の命が土台となり、天国への希望を届ける熱意となっていることを思うと、死は終わりではなく、地に撒かれた種として何倍もの実を結ぶものだと思わされています。

今振り返って、あっという間だったとは到底言えない程、多くの出会い、喜び、悲しみ、笑顔、涙が積まれた

20年でした。弟の命と共に歩んだ20年は、様々な意味で貴重な財産となったと思います。でも、阪神大震災は20年で終止符ではありません。神様が身を切られるような痛みを持って私たちに語りたかったこと、伝えておら



ケニアの学校訪問で

森親善大使  
コンサート

「東日本大震災復興支援の集い」～もう一度見つめ直そう、あの時の心～  
2015年3月7日(土) 14時開演 大阪クリスチャンセンター OCC ホール (無料)



東日本大震災直後、被災者を励ます森祐理さん



四川省大地震・慰問コンサートの前に

れることをしっかりと心に刻み、実行していかなければならないと思います。

各地で災害が相次ぎ、社会が揺れ動く中で、益々不安をもって生きる方々が多い世の中です。だからこそ、絶対に動かされない本物の希望、天の故郷に続く希望を届けていきたいと切に願っています。20年の節目を迎え、この世での命が終わる日まで、弟の命の分までも託された使命を全うしていきたいと、決意を新たにしています。







日本国際飢餓対策機構は世界の飢餓・貧困問題を解決するためには開発途上国、工業先進国の双方の一人ひとりの意識変革と行動が大切であることを呼びかけてきました。皆様の中には、「私も何かを始めてみたい」「支援はしたいけれど、どのようにすればよいのか具体的に知りたい」と思っている方もおられることでしょう。そこで「わたしから始める」の具体例をまとめてみました。この中には、すぐに取り組めることもあれば、少し考え、計画してから実行するものなど様々ですが、ご自分に合うものを検討してみてください幸いです。

## 募金を“始める”

- 「JIFHサポーター」として協力する。 (一口 500円/月)
- 「ハンガーゼロ・サポーター」として協力する。 (一口1000円/月)
- 「海外スタッフ・サポーター」として協力する。 (一口1000円/月)
- 「チャイルド・サポーター」として協力する。 (里子一人4000円/月)
- 「かざして募金」スマートフォンやPCから支援する。



# 広げよう「わたしから始める、世界が変わる」の輪

## 生活の中から“始める”

### ●感謝していただく

棄てることのないように、食料を計画的に買う。一食の感謝を忘れず、食べ残しをなくす。  
(注)日本の年間食料廃棄のワースト1は家庭からの廃棄です。



### ●書き損じはがきで応援する

各事務所では、未投函のはがきを換金して海外スタッフ支援のために用いさせて頂いています。  
【2014年集計】  
はがき: 382,464円分の切手に換金。  
未使用切手: 410,776円分。  
国内外の送料軽減に貢献しています。



### ●『本deリンク』で支援する

JIFH愛知事務所では送られた本やCD・ゲームソフトを換金して、飢餓・貧困に苦しむ人々の支援に用いさせて頂いています。引っ越し、大掃除の際にもぜひご利用ください。

【2014年実績】96,661円

(内訳: 本1420冊、CD216冊、DVD47冊)  
(注)破れや汚れ、書き込みのある書籍、個人出版、文学全集は換金対象外です。CDやDVDはケース割れ、ジャケット、歌詞カード不備、海賊版、個人用、カセットテープやVHSビデオも不可です。



### ●ハンガーゼロ自動販売機を利用・設置する

飲み物を買うと1本につき10円がアフリカの人々に寄付されます。また防災対応のハンガーゼロ自動販売機を設置していただくと、10円の寄付と共に緊急災害時の備蓄用としてパンの缶詰、水各96個が無償で提供されます。現在、全国で80台が稼働中です。

【2014年募金実績】1,387,620円

設置の相談は大阪事務所までどうぞ。設置費用は必要ありません。

### ●募金箱を家庭や職場に置く

小銭と思われるお金も、飢餓・貧困に苦しむ人々にとって何倍もの価値を持ちます。募金箱は、各事務所にお問合せください。



### ●フェアトレードの商品を購入する

開発途上国の生産者から適正な価格で買い取られた商品を扱う会社(キングダムビジネス)から買って支援する。  
(注: 2014年、約30万円の募金がありました)



### ●知る・学ぶ

毎月発行される「飢餓対策ニュース」を読んで、世界の飢餓の現状やJIFHと協力団体の活動、支援者の声を知る。世界の現実についての本(「世界と地球の困った現実」、「旅をしながら」など)を読んで学ぶ。(取扱はキングダムビジネス)



## 参加して“始める”

### ●世界食料デーに参加する

毎年秋行われる日本各地の「世界食料デー大会」に参加して現地からの報告を聞いたり、ボランティアとして運営に加わったりする。各地の大会は実行委員会によって運営されています。食料デー募金に協力することもできます。



### ●海外ワークキャンプや研修に行く

JIFHが毎年夏に行う「海外ワークキャンプ」に参加して、活動地の人々の生活を体験し国際協力の実際を知る。JIFHのハンガーゼロ・ファシリテータートレーニングに参加して、海外協力の専門的な学びをする。

今年のキャンプは南米ボリビアで開催します。お問合せは東京事務所まで。



### ●国際協力イベントに参加する

各地で行われるワールドフェスティバル(大阪)やグローバルフェスタ(東京)、アイフェス(名古屋)などの国際協力フェスティバルにボランティアとして参加する。



まずは自分の地域でどのような国際協力団体や催しがあるかを調べてみましょう。

## 行動して“始める”

### ●企画して実行する

JIFHのスタッフを学校や団体に招いて世界の現状についての話を聞く。JIFHの親善大使を招いて、チャリティーイベントを企画する。学校の文化祭などで飢餓問題の啓発活動や写



日本国際飢餓対策機構の親善大使の皆さん



真パネル、国際児童画の展示、飢餓問題のワークショップなどを行って関心を深める。

### ●ネットを活用する

自分のホームページやブログ、フェイスブックなどのSNS(ソーシャルネットワークサービス)を活用して飢餓の現状を伝え、支援参加の輪を広げる。

## 支援者の皆様とともに

現在約2,500人の方々がハンガーゼロ・サポーター(約3,800口)として、またアフリカ・アジア・南米7カ国の里子たち(約1,900人)のチャイルド・サポーターになって、支援を続けてくださっています。また、一昨年末のフィリピン台風、昨年の広島土砂災害では多数の皆様が募金を届けてくださっただけでなく、災害の現場での緊急・復興支援活動にもボランティアとして参加してくださいました。

支援者の皆様が世界の飢餓と貧困、そして自分の周りの社会の問題に対して「わたしから始める」とき、そこから新しい気づきが生まれたり、人々の交流や祈りが広がっていきます。JIFHはそんな皆様と力を合わせて行動することで、貧困、飢餓、災害、紛争で苦しんでおられる人々の「心とからだ」を励まし、これらの課題の解決の力になると確信しています。共に世界を変えていきましょう。

★「レンガ募金」にご協力をお願いします★

**アフリカ・ウガンダの子どもたちに教室を!**

**レンガ募金 3,000円** (目標)  
募集: 2014年12月~2015年1月

郵便振替 00170-9-68590  
日本国際飢餓対策機構

通信欄に「レンガ募金」と必ず記入して下さい。※お電話でも受付です。ウェブからクレジットカード利用も。

募金方法

5人の児童が  
学費を  
2つしか  
せん

★募金君に  
ンガ募金  
を届けま  
す

一般財団法人  
JIFH 日本国際飢餓対策機構  
〒581-0032 大阪府八尾市弓削町3-74-1  
電話072-920-2225 FAX072-920-2155  
ホームページ http://www.jifh.org/



# ぼくらにできること

バルナバプロジェクトでフィリピン支援 安達燎平さん

フィリピン台風の被災地を訪れたメンバーたち



食料ツアーで演奏する安達さん



プロジェクトのパンフレットと支援CD

## 学校を建てよう!?

僕たちが今取り組んでいるこのプロジェクトは、まさに神様からのビジョンだと思います。始まりは2014年の年始、教会で青年たちのミーティングをした時のことでした。各々が今年の抱負を述べている時、牧師先生が急に「フィリピンに学校を建てよう!」と切り出されました。2013年11月にフィリピンのレイテ島を襲った台風で壊れた学校を再建しよう、ということでした。あまりに突然のことです。そこにいた全員の頭には「?」のマークが浮かんでいたと思います。全員が「できるはずがない」と思ったからです。

けれども不思議なことに、3ヵ月後にはこの計画はバルナバプロジェクトと名付けられてスタートしたのです。まさに『あなたがた

のうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。』という聖書の言葉の通りでした。

最初の活動は、現地で緊急支援活動をしていた日本国際飢餓対策機構の吉田スタッフと共にフィリピンに行って被害の状況を見ることがでした。台風が通過してからすでに4ヵ月経っていましたが、そこには痛々しい爪痕が残っており、台風はまるで昨日来たかのようでした。

しかし、そこで出会った子どもたちの顔は輝いていました。僕はその顔に確かな希望を見ました。それと同時に自分たちを恥じました。子どもたちはこのような状況に置かれても笑顔で過ごしている。一方僕たちはいつも不平ばかり言っている。あれがない、これがないと…彼らに比べたら溢れるほど物を持っているにもかかわらず、ないものばかりを探していたことに気付かされました。

## 10人でもできるんだ!

日本に帰って、まず僕たちの持っている中から献金を始めまし

た。更にフィリピンで感じたことを歌にしてオリジナルのCDを制作し、教会で販売しました。10月の世界食料デー東大阪大会でも活動報告と演奏をしました。販売利益は全額JIFHを通して学校建設の資金になります。また多くの教会に招かれ、賛美や活動の話をさせて頂いています。歌や話は決して上手ではありませんが、行く先々で僕たちのビジョンに賛同してくださる方が与えられます。この時、このプロジェクトが神の計画であることを再び確信することができて、とても励まされます。今はまだまだ小さな活動です。メンバーもわずか10人足らずです。けれども聖書を開くと、少年ダビデが大男ゴリアテを倒し、預言者エリヤは一人でバアルの預言者450人に打ち勝ち、たった5つのパンと2匹の魚が5千人以上の人々の空腹を満たすという奇跡が起こっています。必ず神様は僕たちを通してこの働きを実現させてくださると信じています。

今は一日も早くフィリピンに学校が建つことを願っています。そして、日本中の僕たちと同じような若者に「僕らでもできたんだから、みんなも何かできるよ」と分かち合いたいと願っています。

# 親善大使の活動地訪問

フィリピン



親善大使のManamiさん（歌手）と小堀英郎さん（ピアニスト）が昨年11月に当機構の活動地フィリピンを訪問。今回はManamiさん、次回に小堀さんの訪問記を掲載いたします。

## 都会の貧困を目の当たりにして

ミンドロ島から帰る船が港に着く頃、小型の船で待機していた子ども達が私たちが乗っている船に移ってきて物乞いをはじめました。その中の一人の女の子はお父さんらしい人に背中を押されて船の後部へと周り、私の方へと窓から手をのばしてきます。彼女はまだ5歳くらいの子。いかにも悲しそうな目で私を見つめていましたが、私が何もできずにいるとさっと表情を変えてまた別の人のところに行きました。何回かそれを繰り返した後またお父さんらしい人の元へと裸足で戻って行く。そんな彼女の後ろ姿を見て本当になんとも言えない気持ちになりました。

## 墓石の上での暮らし...

また都会の中でも、貧困の著しい地域を訪問しました。そこはな



んと大きな公営墓地。田舎からでてきたものの都会での生活が厳しくなったおよそ100家族以上が、平らな墓石の上で暮らしているのです。子どもたちは栄養失調で髪の毛の色が茶色くなり、手足は細くお腹がぷっくり出ている。衛生環境の悪い中、地面に落ちている食べ物を平気で口にしています。目をふさぎたくなるような光景に私は顔をこわばらせていました。そんな私をじっと見つめる一人の裸の男の子。彼になんと言葉をかけていいかわからず、私は口をつむってほんの少し笑みを浮かべるのに精一杯でした。

その時私はこう思いました。今ここで私たちがこの子ども達にお金や物を一時的に渡しても、貧困の解決には決してならないのだと。そして私が出会ったこの2人の子ども達は私をみて何を思うのだろう、と。

マニラにある「ユニカセ」というカフェのオーナー中村八千代さんは、このような子ども達を一人でも減らすために、ストリートチルド

レンをそのカフェのスタッフに雇用して一人一人が自立できるようにライフ・スキル・トレーニングを行っています。今回私はそこでライブをさせていただきました。印象的だったのは、カフェのスタッフさん達は慣れない仕事も一生懸命こなし、私たちにお皿や飲み物をサーブする姿がとてもいきいきしていました。また私が歌っている間、台所の奥で八千代さんとともに満面の笑顔で踊っているスタッフのみなさんを見て、胸が熱くなりました。

「強制」ではなく「共生」を  
「競争」ではなく「共創」を

どんな状況であっても共に時間を過ごし、共に分かち合い、共に生きていく、これこそ神様が私たちに与えた最高の喜びであり、恵みのだと気づかされた一場面でした。

このフィリピンツアーは、私の未来の選択肢を広げる機会となりました。

文・Manami

CD「ぼくらにできること」は、大阪シオン教会 ☎ 072 (964) 5144 で直接お求めください。1,000 円（送料別途）

親善大使を招いてのチャリティーコンサートを開催しませんか？ まずは大阪事務所までご連絡をお願いします